

2026.02.08. 信仰の律法 パート1

ローマ人への手紙3章27節

Mac 牧師

頭を下げ、一緒に祈りましょう。主よ、感謝を持って、あなたの御前に参ります。あなたが共にいてくださり、本当に感謝します。ここにいる人たち、オンラインで見ている人たちを皆、祝福くださいますように。主よ、あなたは私たちが見逃してはならないものをご用意されています。私たちの霊を鎮め、私たちの思考を集中させ、耳を開いていてください。私たちの心を柔らかくし、私たちを祝福してくださるものを受け取れますように。主よ、今日という日にわたしが集えることを感謝します。主よ、私たちはあなたの御名を賛美し、マック牧師を心から感謝します。主よ、彼の人生であなたの御心に仕えるため必要な力を、彼に与え続けてください。主よ、今朝、彼にことばを与えてください。あなたの御言葉でのこの時間に改めて感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。

主を褒め称えます。ありがとうございます。どうぞご着席ください。では教会よ、美しい聖徒よ、おはようございます。(会衆：おはようございます。)

照明が明るくないですか？ なんと！ 僕が食べた物のせいかな。J.D.ファラグ牧師の代理で、カルバリー・カネオへによるこそ。オンラインで礼拝をご覧の方も歓迎します。訪問者の方は特別に歓迎し、ここカルバリー・カネオへの聖徒からの溢れる愛で、すでにこの上ない祝福を受けておられますように。始める前に、次回の祈り会のお知らせです。3月3日(火)午後7時から、この礼拝堂で行います。ご都合がよろしければ、ぜひ私たちと教会体と一緒に祈りましょう。予定上、来られない方は、上司を教えてください。私が彼らと話します。あなたをここにお招きし、信者の体として共に祈れるようすべてわたしが解決します。

でも、いや、ご都合がつかない場合は、私たちのために家族として集まるので祈ってください。祈りは継続的に行う必要があるからです。また決して過大評価されるものではありません。ですから、主が導いてくださる通り、また機会がある限り、何度でも祈りましょう。J.D.牧師が今度の木曜日(2月12日)に説教壇に戻るのをお知らせします。「ゼカリヤ書」の聖書の学びを再開する前に、妻の死について率直に語り、「エゼキエル書24章15節から27節」で題材のメッセージをします。また、来週の日曜日、2月15日から、「聖書預言・アップデート」と「説教メッセージ」を再開、オンラインのためにも全てライブ配信します。前に言ったように、彼の復帰を楽しみにしています。状況が違っていればよかったです。私たちの牧師とご家族のために祈り続け、絶えず祈り続けてください。これはプロセスで、私たちは彼らを引き上げなければなりません。日曜日の朝は、礼拝が2つあります。第一礼拝、通常は「聖書預言・アップデート」に捧げ、第二礼拝は、通常「説教メッセージ」です。お知らせ通り、次の日曜日からは通常に戻りますが、今日は、「ローマ人への手紙」をご覧ください。3章27節から31節まで取り上げます。今朝のこの聖句を朗読するのに可能な方は、ご起立ください。そのあと祈ります。「ローマ人への手紙3章」、27節から、神の御言葉をお読みします。

— ローマ 3 : 27 —

それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

— ローマ 3 : 28 —

人は律法の行いとは関わりなく、信仰によって義と認められると、私たちは考えているからです。

— ローマ 3 : 29 —

それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人の神でもあるのではないのでしょうか。そうです。異邦人の神でもあります。

— ローマ 3 : 30 —

神が唯一なら、そうです。神は、割礼のある者を信仰によって義と認め、割礼のない者も信仰によって義と認めてくださるのです。

— ローマ 3 : 31 —

それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法を確立することになります。

それでは、祈って、神に今朝の共に過ごす時間への祝福をお願いしましょう。

愛する天のお父様、まず、今朝、わたしがこうして集まって御言葉を聞くことができることを感謝します。主よ、あなたが私たちに用意くださったのは、これから見ていく通り、非常に難しいテーマです。あなたがここで私たちに会ってくださらなければ、すべては無意味です。主よ、私は祈ります。たぶんわがままですが、この時期、どうかあなたのしもべをあなたの御力で、あなたの真理の御言葉を伝えるため、もう一度私を力付け、私たちの心がそれを受け取るため開かれますように。ですから、あなたの御力と強さによって、私たちの前を行かれ、あなたの聖霊が、わたしが上からの知識を理解するため必要なすべての御働きを

してくださいますように。イエス・キリストの力強い御名によって祈ります。アーメン。

ありがとうございます。どうぞご着席ください。今朝の第一礼拝と第二礼拝の御教えのタイトルは、『信仰の律法』です。第一礼拝は、パート1です。というわけで、初っ端から、4章には入らないことがわかると思います。私はしようと思いました。毎週そう言うでしょ。ええ、学んでいるところです。この学びに携わるうちに、気づいたのは、触れてはいけない話に対処するまたとない機会があることです。主の御心なら、今からそうします。でもその話でも、今朝のパート1 & 2で3章を締めくくります。でも忘れないでください。この章からは、私たちが取り上げなかった、あるいは触れる機会のない、もっと多くのことが抽出できます。私たちがこれらの教えを学んでいく中、ほとんどそうで、だから、私たちは学んだすべてについてをもう一度自分自身で勉強し、復習しなければならないのです。というのも、もっと勉強しなければならない疑問が出る可能性が高いからです。それが、より多くの答えを与え、またそれが、より多くの質問につながるでしょう。ね？ でも、その中で、そのすべてで、私たちは、神の御言葉をより深く知るようになります。私たちの理解が深まると同時に、神の愛だけでなく、神の事柄との私たちの関係も深まります。私は、これは神のご設計によるものだとか心から信じます。なぜなら、それが私たちの霊的な歩みにもたらすポジティブな影響だからです。すべては私たちの益です。それは言うまでもなく、真の生ける神との絶え間ない交わりを保ちます。私たちはそうなるべきです。

では、先週お話ししたように、今、「ローマ人への手紙」の素晴らしいセクション3にいます。このセクションが素晴らしい理由は、全人類に提供された神の義を語るからです。これまで何度も話してきたように、救われるためには、人は義とされなければなりません。そして、義とされるためには、人に義がなければなりません。そして、義とされる義を持つためには、神の義でなければなりません。その義を下されるのはイエスだけです。イエスだけがその義を持っておられるからです。なので改めて、このセクションを理解することは、私たちにとって非常に重要です。ですから話した通り、このセクションでは、前のセクションよりも多くの時間を費やす必要があります。私たちは深く浸る必要があります。私たちが臭いから。わかるでしょ？ 😊 それは罪の問題への解決策を提供するもので、罪は臭い。ね？ そしてこのセクションで成長し、深く理解することで、人類に神の義が必要な理由を説明する際、より良い証人となることができます。また論じたように、私たちの多くは、このような詳細な説明が必要です。だから私たちのために、神の御言葉の中にそれが収められているのです。神はこのすべての土台を網羅しておられます。先週の学びのタイトルは、『神の救いの義』でした。人間の墮落以来、罪の問題を解決する方法が常に人類に用意されていたことの詳細に最善の説明をする御教えで、それが解決可能なのは、「贖罪」のおかげであること。次に、聖書の「贖罪」という語彙についてを見ました。「贖罪」とは、身代金の支払いによる解放を意味する。この支払いは、しばしば奴隷の解放に結びついたり、利用されたりしました。そしてこれは、人類が罪の奴隷であることに、神の御言葉の中で活用される方法です。これが私たちの問題。私たちは罪の負債を負っている。

「罪の報酬は死です。」(ローマ 6:23)

私たちの負債を支払ってもらうためには、私たちと関係があるだけでなく罪の負債を負っていない人に贖ってもらわなければなりません。今話しているのは人類のことです。ですから、贖い主は私たちのような姿でなければなりません。私たちは聖書に基づいて知っています。私たちの近親者の贖い主、キリスト・イエスです。イエスは、全人類を罪の束縛から解放することに、最初から中心焦点でした。来たるべき贖い主。そして贖い主は再び来られる。この現実を見るために、「創世記3章」、20節と21節を見ました。アダムが自分の妻にエバと名づけたのは、彼が神に対して罪を犯した後でした。このことの意味が示すのは、人類が罪のせいで神に呪われた後も、自分たちの子孫から来る贖い主の約束を信じた。21節の通り、それが義と認められ、神ご自身が最初の動物のいけにえで、アダムとエバに衣を着せられました。これは、彼らが神の義の行為に覆われていることを象徴します。血を流すことで、罪は贖われるからです。彼らは贖い主がその約束を果たし、やがて、惑わす蛇の頭を砕き、罪を完全に根絶やしにされる時の完全な贖いを待たなければなりません。待ちきれません。そしてこの行為もまた、死に至るまで血を流すことによって完成されなければなりません。そして、血を流すことは、イエス・キリストが完了された身代わりの罪の贖いです。イエスは、世の「宥めの座」です。イエスのおかげで、イエス通して、慈しみが永遠に支配する。「宥めの座」は証しの律法を覆い、神の民を律法の非難の裁きから隠したことを論じました。一方、血のいけにえを捧げることは、律法違反の彼らの非難を覆うものでした。宥めの座が人々のために神の公正な裁きへの必要な忍耐・寛容を生み出し、その保護の覆いを提供するよう、イエス・キリストの贖いの血潮が同じことをされ、それが人が知る最大の方法である。繰り返しますが、イエスの血潮はすべての罪を贖い、神の正しい裁きは、罪に対する御怒りを人の子に注がれ、十字架上で完全に示されました。そうして、律法は成就しました。ですから、律法はもはやキリスト・イエスにある者を罪に定めません。それが鍵です。イエスの血潮は永遠で、流された。だから、キリストを信じる私たちは御怒りに定められていないのです。これらのことはすべて、この時点で神の義を示すためイエスに信仰を持つ者を義とし、イエスを弁明者とするためになされました。

これが今学んでいるところです。主の祝福をいただいて、「ローマ人への手紙3章」、27節だけを解説していきます。ええ、わかっています。でもそうすることで、私たちは「信仰と行い」というトピックに正面から向き合います。それが「ふれてはいけない話」です。その話に対処するために2つの礼拝に参加せねばならない理由がお分かりいただけたと思います。その話を飲み込むのがどれだけ大変か知っていますか？ わかりませんが、想像できるでしょ？ でも、できる限り体系的に対処していくつもりです。なぜなら、このトピックは本当に本当に重要で、吟味し、正しく分かち必要があるからです。そのためには5分間以上の会話が重要で、実際、先ほど言ったように、この問題に取り組むには、両礼拝のよりよい部分が必要になるでしょう。先週、ある兄弟と話していて、私は気づきました。これは傍らでの会話ではありません。彼は正当な質問をしていて、私は、この質問に5分で答えるにはどうすれば？ 無理です。辿りつかない。だから私は本当に、2、3人の聖人たちが、今週、私が考えたのは、全体像を把握し、滑るように進んでいくことでした。主はそれを許されませんでした。ですから、私たちは「ローマ人への手紙」の中で今いる箇所と一致しているので、それを活用したいと思います。最終的にこのすべてを学び終えたら、なぜ信仰だけが義とされるのかがわかり、そして、神の義なる律法は、御霊による良い行いに決して矛盾しない信仰によって、実際どう確立されるかを結論づけます。いいですか？ では、これからいくつかの用語と、本当に考えねばならないことに入ります。霊的に考える帽子をかぶってくださいね。そして、今朝のこの御教え中、祈っててください。ええ、両礼拝共。私たちの霊的目的地に無事に到着するためには、景色の良いルートを通らねばならないからです。教会よ、私と一緒にですか？ 私は目を閉じるので、そうしたのなら、外に出て行けますよ。では、ということで今日の27節、神の御言葉をお読みします。

一 ローマ 3：27 一

それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。それは取り除かれました。どのような種類の律法によってでしょうか。行いの律法でしょうか。いいえ、信仰の律法によってです。

ここでわかるのは、使徒パウロは、この修辭的な質問をすることで、御霊がその効果をご存じなあの戦術を再び使っています。そして、この節には3つの修辭的な質問があることがわかります。そのひとつひとつへの答えが続きます。ただの答えではなく、特定の1つの答えです。これらの質問は、以前に論じたことすべてに関するものとわかります。おそらく主要点は、アダムに似て生まれた人間は誰も、生まれながらの律法であれ、モーセの律法であれ、それをどれだけを守ることができたとしても神の御目から見て義とされることはできない。なぜなら、罪の中に生まれることが、それ自体、律法違反だからです。私は咎ある者として生まれ 罪ある者として 母は私を身ごもりました。(詩篇 51：5)

それが私たち全員です。私たち誰もが。でも、使徒パウロがここでユダヤ人の同胞に直接語りかけているのも忘れてはなりません。ですから、ここで語られていることについて、このユダヤ人の視点を常に念頭に置いておく必要があります。そうすると、これはユダヤ人たちが自分の人生にある種の正当な誇りを持っているとパウロが語っているからです。なぜなら、彼らは神に選ばれた民だから、そのため、救いそのものに関して、自分たちが何らかの役割を担っていると考えた。聞いてます？ 「ちょっと待ってよ。僕たちには救いへの役割があるよね？」と。いいえ、全く違います。つまり、これは使徒パウロが閉じようとしている最後の抜け穴のようなものなので、その扉をバタンと閉める。そのような考えを誇ることはできないと、パウロは彼らに知らせた。事実ではないから。贖罪に関する神のご計画における彼らの役割は、神の栄光のため、神の栄光だけのためでした。何らかの形で、考えてみれば、私たちは皆、その計画の一部です。

でも、私たちは誰一人として、救いそのものとは無関係です。私たちの誰も。そして、この事実から、神の義は、神から、神によってのみ与えられると知り、誰も何かを達成したと誇れない。特に、神の御目から見た義に対して。このことを理解することが、神の恵みを理解することの始まりです。

注釈：神の恵みは、救いの達成のために、誰にも、いかなる自己満足の余地も残さない。すべては主の御手によるものです。だから御霊によって、使徒パウロは、誇り（プライド）に関してこのように答えるのです。「取り除かれました。」ユダヤ人だけではなく、全人類が。私たち誰もが、「プライドは取り除かれました。」讚美歌の作詞家としては不適合とされていたアイザック・ウォッツという人がいます。でも彼は少なくとも、神の恵みがプライドに何をするか、あるいは何をもちたらずはるかについて、この理解に沿っています。彼は1700年代初頭にこの賛美歌を書きました。タイトルは『When I Survey The Wondrous Cross 十字架を仰ぎ見る時』歌詞の一部を画面に出します。お読みします。

“栄光の君が亡くなった素晴らしい十字架を眺める時、 私は最も大きな利益も損失とみなし、自分のすべての誇りを軽蔑する。”だから、こう言っていていいでしょう。彼はそれを確実に把握した。そして、私たちもそうしますように。彼は、「ガラテヤ人への手紙6章14節」で、実際にこの詩を歌ったのです。ええ、これも、私たちが論じていることへ重みがあるのは明らかです。両方、誇り（プライド）を直接的に語るからです。そして、プライドと宗教について考えるとき、このことによく気づきます：“どんな宗教にまつわる行いにも、常にプライドの余地がある。”そう思いませんか？ これは宗教的行いの危険性のひとつで、イエスが

宗教指導者たちにあれほど反対された理由でもあります。彼らの焦点は、人々を自分たちの宗教に導くことであって、人々を神に導くことではなかったからです。それが起こるのです。そして、これらのことはすべて、放っておいても同じ結論につながります。それは、人々が主への信仰よりも自分の行いへの信仰を持ち始めること。律法の義なる行いの中でさえも。なぜなら、信仰を全く持たずに義の行いをするには、信仰を持ってない。そもそも、いのちがない。皆さん、聞いてます？ だから、将来的に死んだ行いとさえ、見なされかねない。でしょ？ 信仰が確立されていないから。言い換えると、義なる行いだけでは救いはありません。でも、キリストを信じる信仰だけで、救われます。会衆：アーメン！！

行いを含める必要はありません。なぜなら、信仰の律法は、贖い主を信じることだから。それは、イエス・キリストの福音によって完成された神の福音の中にあります。救いのために信仰の律法に何を加えても、聖書に従っていません。しかし、悲しいことに、多くの人々が、言わせていただきますが、おそらく、ほとんどの教派が、何らかの形で、救いの一部として、表から、裏から、横から、窓側から、行いを結びつけます。それが展開されている。救いに行いを結びつけるのは問題です。そう、先週、「救いの信仰」として知られる偽りの教義についてお話ししました。これが物語るのは、この救いの信仰を持つことは、基本的にキリストを信じ、救われたことを証明する信仰を意味する。そのためには、あなたが信じていることを行いによって証明せねばならない。それだけではなく、また、神が命じられたことに従うことで、自分の信仰が神からの賜物であることを十分に認識するようになる。この教義には、さまざまな側面があることをお忘れなく。また、私たちが呼ぶように、それを口にする人もいます。彼らが言うのは、「救いの信仰とは、キリストだけを信じることです。」そこまでなら、私たちは同意します。もちろんです。それが救われる信仰。でも、それが、、一週間後、「でも」がやってきます。それが問題です。これは、「信仰と行い」に正面から取り組めるよう私たちが基礎固めを始める学びの一部です。そして、最終的に「ヤコブの手紙」を読むこととなります。第二礼拝では、かなり最初から、このある種の矛盾を見ていき、「信仰と行い」、その解釈について話します。肝心なところを突き詰めなければ、どんな簡単な説明でも、これがどう論じられているのか納得できません。うまくいきません。議論されていることは、説明しなければなりませんから。それをしたいと思います。ではまず、この矛盾を仮定して組み立ててみましょう。そのために、「エペソ人への手紙」を取り上げて、この議論を始めます。「議論」という言葉は、大胆というか、辛辣に思えるかもしれませんが、私たちのクリスチャンのランクで議論になっています。私たちはその議論を打ち壊す必要があります。この混乱の多くは、特定の聖句を隔離するからです。ええ、あなたは聖句を隔離できますよ。でもそうしても、メッセージの文脈を新しい教義に変えることはできません。実際、今からそのことを実証し、文脈的な意味で一節を切り離して見る方法の例を示します。それには、私たち信者への全体的メッセージと矛盾する聖句はありません。私たちはこの一連の節を何度も何度も見てきましたから、驚くことではありません。でも、そのすべてが、これから入っていくものを引き立ててくれますように。

では、「エペソ人への手紙 2 章 8 節 9 節」、有名な聖句です。神の御言葉をお読みします。

— エペソ 2 : 8 —

この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

— エペソ 2 : 9 —

行いによるものではありません。だれも誇ることもないためです。

もう何度聞いたことでしょうか。使徒パウロは、キリストを信じるのが救われるための唯一の条件であるというスタンスで一貫していることがよくわかります。私たちの救いを得るために、私たちの側が行う、行うべきことは何もありません。救いは神の恵みです。救いは神の賜物です。信じる者は、信仰によって救われるからです。そして「救われる」という語彙について話したことを思い出してください。皆さん、覚えていますか？ 救いの時制で説明しましたね。そして、そうした時、私たちは罪の力から、救われたことに集中する。このリストの 3 つ目です。私たちが注目したのはこれです。なぜなら、罪の力から救われることは、私たちの聖化のプロセスにおいて極めて重要だからです。それは、神に栄光をもたらすため神の御言葉を継続的に適応すること。教会よ、ついてきていますか？ ですから、質問はこうです：「真の生ける神に栄光をもたらすには？」答えはこの 3 語。(By good works) 良い行いによって。聞こえますか？ そうやって私たちは栄光をもたらす。「どんなプロセスに付随する行いですか？」私たちの聖化のプロセスに。救いではありません。今これは、救われた＝過去形。救いについて話しているものではありません。救われて、聖化についての話です。それが今、現在形。

では、テストの 1 問目です。準備はいいですか？ 注意して見てください。「救われる」が、現在形なら、良い行いとは何か？ どんなプロセスですか？ 聖化です！主を褒め称えます。それが答えです。そして、それらの行いは神に栄光をもたらします。「マタイの福音書 5 章 16 節」、神の御言葉をお読みします。

— マタイ 5 : 16 —

— ヤコブ 1:2 —

私の兄弟たち。様々な試練にあうときはいつでも、この上もない喜びと思いなさい。皆さん、分かりますか？「試練」ですよ。

— ヤコブ 1:3 —

あなたがたが知っているとおりに、信仰が試されると忍耐が生まれます。

— ヤコブ 1:4 —

その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは何一つ欠けたところのない、成熟した、完全な者となります。

さあ、私たちは自問せねばなりません。まさにこれらの箇所、行いによって神を讃えるということについて、誰に語っているのか？ 信者に、です。そして、すでにわかったように神の御霊によって行われる良い行いは、私たちが聖化されていることを証明します。主に仕えるために、世から切り離された者。ヤコブが信仰をどのように用いているのかを、私たちが参照するポイントを得るため、「ヤコブの手紙」の冒頭から始めたいと思いました。それがわかりますか？ 3節を見てください。「信仰が試されると忍耐が生まれます。」わかりますか？

では、イエス・キリストの福音を信じる信仰が試されるということですか？ 違います。それは不可能です。なぜなら、彼らはすでに救われているからです。これが救いの試練について語っていると結論付けてしまう唯一は、一度救われた人が救いを失う可能性があると感じている場合です。あなたがそう信じているなら、そうであれば、それがどんなに小さなことでも、ある時点であなたは、十字架の完成された御業に何かを足している。それがあなたのしていること。あなたは、救いとあらゆる行いを結びつけて考えることで、キリストを何度も何度も十字架につけている。さあ、考えてみてください。単に割礼を受けただけの行いで、絶賛されるなら、ね？ 使徒パウロが語りました。なぜ割礼を受けるのですか？ それが救いの一部としてしてはならないと叱られたのなら、なぜ他の行いが含まれるのですか？ わかりますか？ どんな段階でも、救いのために行いが要ると信じる時、あなたが言っているのは、イエスは私のために死んでくださった。私は行いで返済をしなければならない。何かをしないと。 そうです。それで、本当に、どんな行いによってでも、救いを維持したり、得られる、どんな行いでも、それを維持すると、信じるなら、だったら最初からそうすればいいのでは？ 必要ありませんよ。面倒なことはしないでください。じゃあ、動物を生け贄に捧げ続けてください。でしょ？ それは、私たちへの罠。それで行いを続ける。教会よ、ついてきますか？ おお、だって、おお、聖霊がいなかったからだ！ まじ？ もしそうなら、ニネベ人はどうやって救われたのか？ でしょ？ 行いはまったくない。でも彼らは救われた。言うまでもなく、それは十字架上での完成した御業前です。行いとは、彼らの背後の霊と同じくらいのものでしかなく、それでも救われることはありません。そしてそれは、私たちが考え、自問せねばならない別のことです。つまり、私たちが成長させ、信仰を成熟させる信仰は、いつ動き出すのか？ それは何か？ いつ起こるのか？ 私たちはいつから信仰が成長するのか？ 私たちがキリストのもとに来て、信じ、信じた後です。そう思いませんか？

そうじゃなく、すべてのプロセスを始めてから信仰に至るの？ いったん信じたら、です。いったん信じれば、それが義と認められ、神の御目に義とされます。その時、私たちの信仰の活発な部分が始まるのです。その時起こります。そしてそれは、聖化のプロセスとも連動します。義とされ、生涯の聖化であるべきで、私たちが復活した新しい状態になって、栄光を受ける。では、ここでヤコブが何を表現しているのかわかりますか？ これが手紙の冒頭です。信仰において成熟したクリスチャンになるため、あるいはそうあり続けるために、信仰が試されることについてを、信者たちに向かって語っているのです。そういうことです。そして、これらのことは、信仰によって救われることとは何の関係もありません。でも、信仰を持っているからといって、自分が信じていると主張する信仰を實踐せずに、自動的に人生の影響から救われる意味ではありません。教会よ、聞いていますか？ これが問題です。第二礼拝でこの話が満載になるのがわかります。でも私は今、私たちがこの違いを理解していることを確認したいのです。なぜなら、真理の御言葉を正しく分かちあうことができるのは、このような細部にあるからです。60年代に、私たちクリスチャンが信仰の成長をする上で、この部分の一面を理解しやすくするため、ある教派が確立した教理があります。この教理をご存知の方も多いでしょう。これは“the faith-rest drill doctrine 信仰と休息の訓練の教理”として知られています。その核心は、神の約束を積極的に信じることで、不安や恐れ、逆境に打ち勝つために信者が用いる精神的なテクニックです神の御言葉の実践的知識に基づいて。それが鍵です。この訓練やテクニックの背後にある考えは、適切に使用された場合、信者の生活の中で恐怖よりも信仰を、または疑いよりも信仰を持つことにつながるはずだというものです。そうすれば、精神的な安定と同時に、精神的な休息も得られるはずだと。このテクニックに名称がなくても、信仰で成熟している私たちの多くは、すでにそれを使っています。ほとんどの方がそうでしょう。皆さん、自分が対処している状況に関し、神の約束に頼り頼みます。例をあげると、私たちは内に入って何かに対処し、信仰が揺ぎ始めるでしょ？ そして、神の御言葉の知識に基づい

て、思い出す。揺らぐような信仰を持つてはならないと。ね？ だから私たちは主に祈ります。"あなたに感謝を捧げます。今この瞬間、あなたの御言葉にあることを知りながら信仰が揺らいでいることをお許してください。"そして、神の御言葉が仰ることを繰り返す。そして、どうなるかというところ、あれ、悪魔のハエが飛んでる。ベルゼブブだ！（悪魔の一人）👹👹

それで、神の御言葉が仰ることを繰り返す、神の約束にしがみつき、そして、その状況のためにその祈りを祈る。なぜなら、それはすでに神の御言葉に書かれているから。だから、それは神の御心だ。それがわかりますか？ これは私たちに、この物理的な現実生きながら、霊的恩恵をもたらす。そして、私たちはその答えが来ることを知っています。神は嘘をつけないからです。そして、これは一時的な物質的利益の「名を上げて主張する」反応ではありません。繰り返しますが、これは神の約束に頼ることで、必要な霊的利益を得るためです。そしてそれは、神の御言葉を知ることによってもたらされます。それが鍵です。教理です。このことを考えてみてください。この教理そのもの、"the faith-rest drill doctrine 信仰と休息の訓練の教理"は、キリスト教徒が迫害されたことから生まれました。いかがですか？ 迫害と試練がこの教理を駆り立てました。私たちは試練が来ることを知っているのです、私たちは皆、聖書に基づいてあらかじめ計画された対応をするはずで。だから、試練が来たときには、私たちはそれに備えている。この"the faith-rest drill doctrine 信仰と休息の訓練の教理"とは何か、そのおもな目的について理解しておくことは、この「信仰と行い」の問題に直接取り組むときに役立ちます。そして、そうなったら、それが問題でなくなりますように。

さて、すべての教義、テクニック、そして他のすべてのものも、それらは常に行き過ぎのポイントに到達しうる。そしてこの教理も、それを悪用するクリスチャンがいるため、何ら変わりはありません。その理由は、彼らが聖書真理を理解していないからです。つまり、聖書の知識が正しく適応されてこそ、その良さが発揮されるのです。でも、この行き過ぎた行為のせいで、クリスチャンはこのテクニックを、何もせずにただ座って、(精神的な) 支えに利用することがよくあります。「おお～、私はすべてを主なる神に捧げるだけだよ～そう、すべては神の御手の中だ。」と。でもちょっと待って、すべての試練や迫害、苦しみは同じではありません。その多くは、私たちが積極的に対応する必要があります。ある種の関与。そして、私たちはこの事実に対して敏感でなければなりません。というのも、それは私たちの信仰を両側から訓練することで、それが行いの領域だからです。そうなんです。というのは、試練や試みの間、じっと耐える忍耐強い行いと、積極的に行動する忍耐強い行い。これは私たちの信仰に付随する聖化の一部です。ですから、「ヤコブの手紙」に戻って、信仰の試練は、聖化のプロセス全体の一部です。今お話ししたように、それは今でも同じです。そして、私たちはもう知っているはずで。試練の中で積極的な対応をすることを。私たちの信仰が試されるとは、いつも起こるわけではありません。信仰が試されているとき、私たちはいつも肯定的反応をするわけではありません。ヤコブはそれを知っているから、信者にこのような鋭い言葉を投げかけるのです。私たちにもです。この現実を私たちの思いの前面に押し出す必要があるからです。ヤコブは、試練を耐え忍ぶための大きな励ましを教えてください。私たちはそのことにも敏感でなければなりません。これは私たちの信仰における良い行いの一部です。「ヤコブの手紙 1 章 12 節」にこのことが書かれていますが、14 節と 15 節も見ましょう。同じスライドを使うので、追加点を強調することができます。でも 12 節から、神の御言葉をお読みします。

— ヤコブ 1 : 12 —

試練に耐える人は幸いです。耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受けるからです。

これがわかりますか？ だから、わかるのは、忠実で永続的な行いと呼ぶように、これらの行いがどのように報酬に付随しているかに注目してください。「いのちの冠を受ける」救いに至る信仰は稼げないことを私たちは知っています。ですから、この手紙の初めから、ヤコブは信者がどのように信仰を実践すべきかを強調していることがわかります。これが課題です。そして、彼はこの点を強調し続けます。12 節にある「approved/絶え抜いた」という語彙に注目ください。この語彙はギリシャ語で「dokimos」で、試されるという意味です。なので、「試され、耐え抜いた人は、神を愛する者たちに約束された、いのちの冠を受け。」試されている間、忠実に耐えることで、信者たちは主ご自身からいのちの冠を得ることができる。これもまた、良い行いです。でも救いに関わる行いではありません。教会よ、理解していますか？ では 14 節と 15 節を見ながら、少しギアを入れ替えましょう。神の御言葉をお読みします。

— ヤコブ 1 : 14 —

人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。

— ヤコブ 1 : 15 —

そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。

OK。思い出しましょう。ヤコブは誰に語っているのか？ 信者に、です。では、これは何の死について語っ

ているのか？ 救いが死ぬのではありません。なぜなら、私たちは信者として、自分が新生していることを知っているからです。もう一度新生するとか、もう一度死ぬのではありません。救いにそれは起こりません。しかし、私たちは信者としてまだ罪を犯すことも知っています。そして、もし私たちが信者として故意に罪の状態にとどまるなら、御霊による働きはまったくくないでしょう。私たちが何をしても、それらはカウントされません。すべてが無駄で、死と見なされます。それを第二礼拝で、学びます。しかし、完全に成長した罪は、肉体的な死をもたらす性質もあります。聞いていますか？ 霊的、世俗的だけでなく、肉体的な死。聖書全体を通してそれが見られます。信者として私たちは、この影響をまったく受けないわけではありません。この理解こそ、第二礼拝に持ち込むべきで、伝えた通り、「信仰と行い」について、「ヤコブの手紙 2 章」に直接飛び込み、同時に、「ローマ人への手紙 3 章」の残りの部分を解説し終えます。だから、あなたが一緒にいてくださいますように。ご辛抱くださることを感謝します。でも、そうすれば、この事態を終わらせるため、舞台はきちんと作りたく、同時に、この立場、聖書のこの立場に異議を唱える人たちへ答えます。ですから、それは私たちの学習のためで、私たちの啓発のためです。ご起立ください。祈りましょう。天のお父様、今一度、あなたに感謝します。あなただけがこれを正すことができになります。それを理解させることができになるのはあなただけです。すべてまっすぐにおできになるのはあなただけです。私たちはあなたに依存します。だから私たちはここにいます。御言葉を聞くだけでなく、主よ、それを心に刻みたいのです。ですから、真理の御言葉を受け取り続けるために、私たちが席を離れ、祈りつつ戻って来たら、新しい新鮮な油注ぎをしてくださいますか？ ここまで明らかにして下さったことを感謝します。あなたがこの先もこのトピックを明らかにし、光を当て続けてくださいますように。そうすれば、私たちはより良い証人となり、あなたが私たちにくださった能力を最大限に発揮し、あなたに仕えることができます。あなただけがおできになることを、前もって感謝します。救世主キリスト・イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師 カルバリー・カネオへ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7